

# 脱炭素都市づくり

## 【目指す都市の姿】

活力や快適性を備えながら、脱炭素化と気候変動による影響への適応が実現したまち

## 【施策の方向】

- 脱炭素型のまちの構造をつくる
- 脱炭素型のエネルギーシステムの構築を進める
- 環境にやさしい交通への転換を進める
- 脱炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルを定着させる
- 気候変動によるリスクに備える

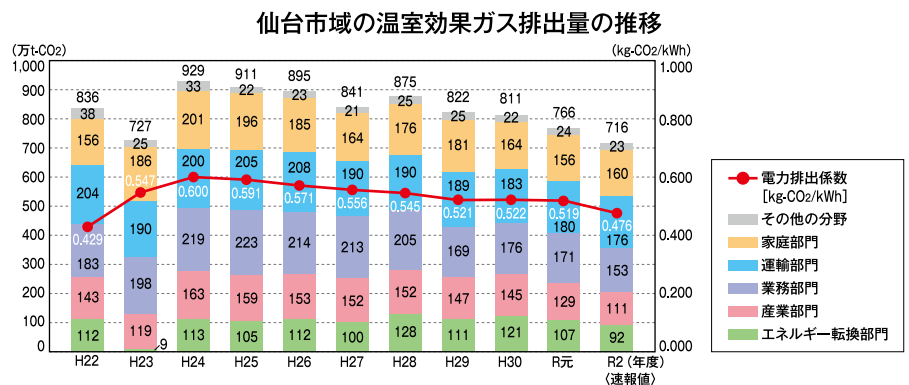
## 【関連するSDGs】



## 本市の現況

### ■ 温室効果ガス排出量の推移

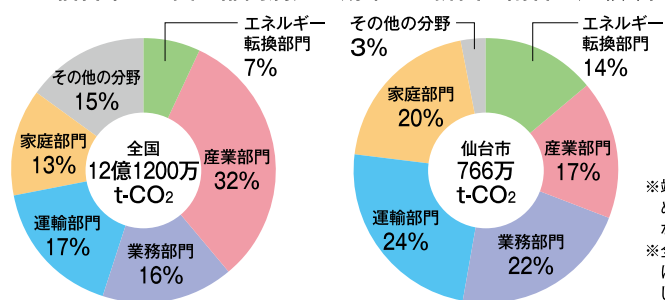
直近の推計結果である令和2年度の温室効果ガス排出量は、速報値で716万t-CO<sub>2</sub>(平成25年度比21.4%減)となりました。基準年度である平成25年度以降、減少傾向にあります。令和2年度は特に新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞等も影響しているものと考えられます。



### ■ 仙台市の特徴

温室効果ガス排出量の部門別割合を全国と比較した場合、本市の特徴としては、産業部門の割合が低く、業務部門、運輸部門及び家庭部門の割合が高いことがわかります。これは、仙台市は大規模な製造業が少なく、オフィスでの空調や自動車の利用、家庭での給湯・暖房などのエネルギー消費が多いためと考えられます。

仙台市と全国の部門別温室効果ガス排出量割合の比較(令和元年度)



※端数処理をしているため、合計が100%とならない場合があります。  
※全国の排出量については環境省資料より作成しています。

## 令和3年度に実施した主な取り組み

### ■ 事業活動における取り組み

市域の温室効果ガス排出量の約6割を占める事業活動からの排出を削減するため、「仙台市地球温暖化対策等の推進に関する条例」に基づき、事業者と市が協働して計画的な温室効果ガス排出削減に取り組む「温室効果ガス削減アクションプログラム」を推進したほか、災害に強いエネルギー自律型のまちづくりを推進するため、災害時に地域の防災拠点となる民間施設への再生可能エネルギー等設備の導入事業や、クリーンで安定的なエネルギーの製造・供給を行う事業に対する助成を実施しました。



## ■家庭における取り組み

家庭における電気使用量の割合が高い冷蔵庫及びエアコンを対象として、古い家電を省エネ性能の高い家電へ買い替えた方に、抽選でicscaポイント等の景品が当たるキャンペーンを実施しました。

また、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)※の基準を満たす住宅への太陽光発電システム等の導入に対する助成や住宅等の窓断熱改修に対する助成、都市ガスやLPGを燃料とした発電に伴い発生する熱でお湯を沸かすエネファームの導入に対する助成を実施しました。

※ZEH(ゼッチ)とは、断熱性能の向上や省エネ設備の導入により、使用するエネルギーを減らした上で、太陽光発電等の再生可能エネルギーを導入することで、年間のエネルギー消費量の収支がプラスマイナスゼロとなることを目指した住宅のことです。

キャンペーンチラシ▶



## ■市有施設等における取り組み

指定避難所を中心とした198カ所(令和3年度末現在)に太陽光発電と蓄電池を組み合わせた防災対応型太陽光発電システムを導入し、運用しています。また、ごみ焼却工場における廃棄物発電や、上下水道施設における小水力発電の導入など、再生可能エネルギー等の有効利用を推進しています。

さらに、官民連携の取り組みとして田子西地区及び荒井東地区においては、民間資本との協働によって特定のエネルギーに依存せず、エネルギー効率が高く非常時も安心な都市づくりを目指す「エコモデルタウン事業」を実施しています。



▲指定避難所の太陽光発電パネルとリチウムイオン蓄電池

## ■地球温暖化対策のための啓発

市民、事業者、行政の協働により、省エネ・創エネ・蓄エネの「3E」実践に向けた普及啓発に取り組むため、「せんだいE-Action実行委員会」を組織し、様々な取り組みを行っています。

令和3年度は、Webを活用した取り組みとして、3E啓発動画の制作・配信や、家庭におけるエコ度を診断できるツールの運用等を行いました。また、エネルギーについて楽しみながら学べるワークショップ「エネルギー実験室」を開催したほか、中野栄小学校及びたまきさんサロンで緑のカーテンづくりに取り組みました。



▲緑のカーテン(たまきさんサロン)

## ■環境にやさしい交通手段への転換

「せんだいスマート」をキャッチフレーズに、移動手段が固まっていない本市に転入してきた方を対象に、市内のバス路線図や公共交通の案内などの情報を提供するなど、市民、交通事業者、企業、学校などとの協働により、公共交通の利用を促進する取り組みを行っています。

また、平成25年3月に都市内の移動手段として、みんなで自転車を共有するコミュニティサイクル(愛称「DATE BIKE(ダテバイク)」)を導入し、二酸化炭素の削減や地域の活性化を図るほか、自転車通行空間の整備等により、自転車を利用しやすい環境づくりを推進しています。



▲DATE BIKE

## ■機能集約型の都市づくり

令和3年3月に策定した「仙台市都市計画マスタープラン～都市計画に関する基本的な方針2021-2030～」に基づき、都心や広域拠点(泉中央地区・長町地区)、地下鉄沿線の都市軸、鉄道沿線に商業・業務、福祉・子育て・医療などの都市機能の集積及び高度化を進めています。鉄道を中心とした公共交通による、多様な都市機能へのアクセス性向上を図り、環境負荷の少ない効率的な都市経営や防災性にも優れた機能集約型の都市づくりに取り組み、豊かな緑との調和や防災に配慮された、魅力的で暮らしやすく、安全・安心な空間が形成された持続可能な都市構造の実現を目指します。